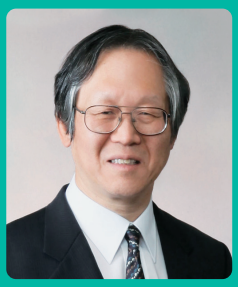
CDC Watch

2026 November 361

株式会社メディコン



矢野 邦夫 先生
浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。
メディコン CDCWatch 検索

矯正施設における梅毒スクリーニング（アラスカ州）

米国では梅毒が大幅に増加している。CDCがアラスカ州の矯正施設収容者における梅毒スクリーニング検査の結果を報告しているので紹介する（1）。

■米国およびアラスカ州における梅毒の流行

- 米国では2017年以降、全土およびアラスカ州において梅毒が大幅に増加しており、特に矯正施設収容者における感染伝播の予防と早期発見が公衆衛生上の重要な課題となっている。
- 梅毒は*Treponema pallidum*を病原体とする性感染症であり、妊娠中の感染は胎児に重篤な健康被害や死亡をもたらす先天梅毒を引き起こすため、早期診断と治療が不可欠である。
- アラスカ州で報告された梅毒件数は、2016年の20件から2024年には452件（人口10万人あたり61件）へと約2,200%増加した。同時期に全米でも梅毒および先天梅毒の症例数が約700%増加していた。
- 2024年にアラスカ州で報告された梅毒452件のうち、半数近くの216件（47.8%）が女性であり、その女性症例の91.2%にあたる197件が15歳から44歳の妊娠可能年齢層に集中していた。
- アラスカ州の先天梅毒の症例数は、2019年には0件であったものの、2022年には過去最多の12件（出生10万人あたり128件に相当）へ急増し、2023年に10件、2024年に6件と推移している。

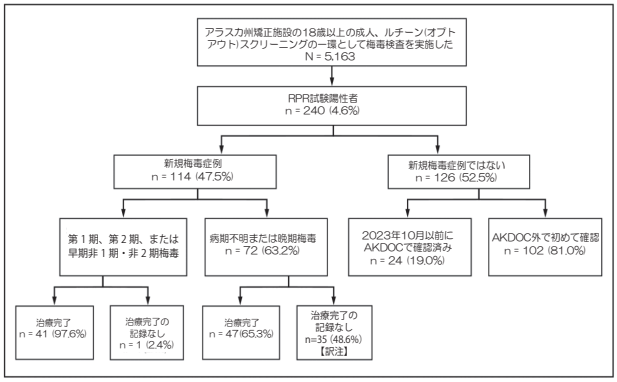
■オプトアウト方式によるスクリーニングの実施概要と検証方法

- アラスカ州矯正局（Alaska Department of Corrections: AKDOC）はアラスカ州保健省（Alaska Department of Health : AKDOH）と連携し、先天梅毒予防の一環として2023年10月16日より矯正施設収容者を対象としたオプトアウト方式の梅毒スクリーニングを開始した。
- オプトアウト方式スクリーニングとは、収容者が明示的に辞退しない限り、到着から14日以内に行われる通常の医療診察時に梅毒やHIV等の感染症検査をルーチンに実施する戦略である。
- CDCは矯正施設内および地域社会における感染流行状況に基づき検査に伴う心理的・社会的な抵抗感を軽減し検査率を向上させる手段としてオプトアウト方式スクリーニングの実施を推奨している。
- 本分析対象は2023年10月16日から2025年9月12日までにAKDOC矯正施設に入所し検査を受けた18歳以上の成人5,163名であり、未成年施設を除くすべてのAKDOC施設が含まれている。
- 梅毒のスクリーニング検査では、まず非トレポネーマ試験であるRPR（Rapid Plasma Reagin）試験を実施し、陽性を示した検体に対して希釈抗体価の測定を行った。
- RPR陽性検体に対しては、同一検体を用いて病原体に特異的なトレポネーマ試験（確認試験）を追加実施する従来のスクリーニングアルゴリズムが採用された[註釈1]。
- 新規梅毒症例の定義および病期分類は、2018年の州・地域疫学者協議会（Council of State and Territorial Epidemiologists : CSTE）の基準に基づき決定され、CDCガイドラインに従って治療管理および報告が行われた。

■【スクリーニング結果と新規梅毒症例の検出状況】（図）

- 2023年10月から2025年9月までにスクリーニングを受けた成人5,163名のうち、男性は4,141名（80.2%）、女性は1,022名（19.8%）であり、全体の中央値年齢は35歳であった。
- スクリーニング受検者5,163名のうち、RPR試験で陽性を示したのは240名（4.6%）であり、男性では4,141名中145名（3.5%）、女性では1,022名中95名（9.3%）であった。
- RPR陽性を示した女性95名のうち、88名（92.6%）が18～44歳の妊娠可能年齢であった。
- RPR陽性者240名のうち、CSTE基準を満たす新規梅毒症例と判定されたのは114名（47.5%）であり、これは受検者全体の2.2%（10万人あたり2,208名）に相当した。
- RPR陽性でありながら新規梅毒症例に該当しなかった126名（52.5%）は全員トレポネーマ試験陽性であり、そのうち、24名はスクリーニング導入前にAKDOCの通常医療で診断されており、102名はAKDOC外で過去に診断されていた。

矯正施設収容者におけるRPR試験の結果および梅毒治療の状況*― アラスカ州、2023年10月～2025年9月



略称：AKDOC = アラスカ州矯正局
※パーセンテージは、前の欄の数値を分母として計算した

- 妊娠可能年齢の女性88名のうち37名（42%）が新規梅毒症例と特定され、32人（86%）では妊娠の有無が確認されており、そのうち1人はスクリーニング時に妊娠していた。

■病期分類および治療完了の状況

- 新規診断された114例の病期分類では、第1期、第2期、または早期非1期・非2期梅毒[註釈2]が42例（36.8%）、病期不明または晩期梅毒が72例（63.2%）と判定された。
- 早期梅毒（第1期、第2期、または早期非1期・非2期梅毒）の42例のうち、41例（97.6%）がベンザチンペニシリン1回投与またはドキシサイクリン14日間投与による推奨治療を完了した。
- 病期不明または晩期梅毒の72例のうち、ベンザチンペニシリン3回投与またはドキシサイクリン28日間投与による完全な治療を完了したのは47例（65.3%）であった。
- 病期不明または晩期梅毒72例のうち35例（48.6%）【訳注】は治療未完了であり、13例（18.1%）が治療を開始したが完了が確認されないまま退所し、12例（16.7%）は退所後の連絡不能等により未治療または経過不明となった。
- 新規梅毒114例全体では、88例（77.2%）が完全な治療を完了し、73例（64.0%）はAKDOC施設収容中に治療を完了させることができた。
- AKDOC施設退所後に治療を完了した者は15例（13.1%）であり、施設外で診断された未治療の既知症例5例についてもAKDOC収容中に無事治療が完了した。

■本調査の限界

- 第1の限界：オプトアウト辞退者の人数や背景データが取得できず、スクリーニング辞退率や辞退者の特徴に関する詳細な分析が不可能であった。
- 第2の限界：スクリーニング受検者が主に14日以上収容された者に限られており、短期間で退所した未決拘禁者等における感染率や受容性が網羅されていない。
- 第3の限界：全州で一律のオプトアウト検査が行われていないため、施設内スクリーニングで得られた陽性率と全州の年間報告罹患率を直接比較することはできない。
- 第4の限界：新規感染女性の妊娠状況が全員追跡できたわけではないため、実際に予防された先天梅毒症例数が未把握の妊娠により過小評価されている可能性がある。

［文献］

1. Ohlsen E, Rogers J, Clark S, Lawrence R, McLaughlin J. Syphilis Screening in Correctional Facilities — Alaska, October 2023–September 2025. MMWR Morb Mortal Wkly Rep 2026;75:557–562.
DOI:http://dx.doi.org/10.15585/mmwr.mm736a1.
https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/75/wr/pdfs/mm7536a1-H.pdf

註釈1：RPR試験は早期第1期梅毒や第3期梅毒での感度低下や、自己免疫疾患、妊娠、ウイルス感染等による偽陽性の可能性があるため、確定診断にはトレポネーマ試験との併用が必要である。

註釈2：早期非1期・非2期梅毒(early nonprimary nonsecondary syphilis)：早期梅毒のうち、第1期梅毒でも第2期梅毒でもないもの。

【訳注】原著本文とFigureの間で記載の不整合が見られます。本文中では病期不明または晩期梅毒の72例の内訳として完全治療47例（65.3%）、部分治療13例（18.1%）、未治療/不明12例（16.7%）と記載されており、治療未完了の合計は25例（34.7%）となります（Figureの「35例［48.6%］」は誤記と考えられます）。

株式会社メディコン
カスタマーサービス www.bdj.co.jp/s/cs/

bd.com/jp/

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.
© 2026 BD. All rights reserved.